

矢田駅(近鉄南大阪線)

藤原一族の故郷・中臣須牟地神社へ



「大阪あそび歩マップ集」
その3 No.143

近鉄矢田駅

① 中臣須牟地神社

当地はかつて中臣氏の土地で、中臣氏は住吉に来た外国使節を磯齒津路から飛鳥へ案内する際に、ここで地酒を振る舞って歓迎したといわれています。この中臣氏から中臣(藤原)鎌足が現れて名門貴族となります。神社は藤原不比等(659~720)が創建したもので「大社」の社格をもつ式内社です。



② 須牟地(住道) 廃寺跡

藤原不比等が建立し、僧・玄昉が開基したといわれています。平安末期に焼失しましたが、古瓦や塔芯石が確認されています。中臣須牟地神社とともに藤原氏の関わりの深さが推察できます。

③ 常栄寺

真宗大谷派寺院ですが、境内の雨受けに利用されている石が、須牟地廃寺の塔礎石です。石の大きさは底辺167センチ、高さ150センチの正三角錐台で、中央にある柱穴の直径は67センチ、高さ16センチです。石の材質と加工状態から奈良時代に造られたものと判定され、焼け跡が見られるので、須牟地寺の塔礎石とわかりました。

④ 賽の神社

道祖神で「馬街道」とも呼ばれた下高野街道の一角にあります。村に疫病が入らぬように、また旅人の安全を祈願して祀られたものです。昔、近くの川を流れてきた石が泡を吹いていて、村人が拾い上げると「我は火の神で、寒いから火を炊いてほしい。供養する者には1年間息災のご利益を与える」とお告げをした伝承があり、「火除けと家内安全の神様」として大切にされています。

⑤ 下高野街道

律令制の崩壊で神道が衰退すると大衆仏教が隆盛して、高野詣が天皇、公家、武士、庶民にまで広がりました。下高野街道は、京から淀川を舟で下って大坂・四天王寺に入り、田辺村~天美村(松原市)~八下村(堺市)~岩室村(大阪狭山市)などを経て高野山に向かいます。宗教街道ですが、江戸時代には生活道路としても発達しました。

⑥ 大和川

古代の大和川は生駒山系を抜けると、石川と合流して北に向かい、河内湖に注ぎ込んで、上町台地の北端で海と合流していました。やがて淀川と大和川の土砂で河内湖は埋まって河内平野を形成しますが、大和川支流は土砂が堆積した天井川で、たびたび水害を起こしました。そこで今米村(現・東大阪市)の庄屋・中甚兵衛らが幕府に請願して、宝永元年(1704)に付け替え工事をおこない、わずか8カ月で大和川は西流するようになりました。戦後、水質が悪化しましたが、現在は大幅に改善され、アユの産卵も確認されています。



近鉄矢田駅

